

実二次形式の標準化

A が実対称行列であることから、 A は適当な直交行列 P を用いて対角化できる

$$B = P^{-1}AP = \begin{pmatrix} \alpha_1 & & \\ & \ddots & \\ & & \alpha_n \end{pmatrix}$$

ref: 行列と行列式の基礎 p210

ref: 長岡亮介 線形代数入門講義 p298~299

与えられた二次形式 $Q(\mathbf{x}) = {}^t\mathbf{x}A\mathbf{x}$ に対して、 $\mathbf{y} = P^{-1}\mathbf{x}$ 、すなわち $\mathbf{x} = P\mathbf{y}$ という変数の変換を行うと、

$$\begin{aligned} {}^t\mathbf{x}A\mathbf{x} &= {}^t(P\mathbf{y})A(P\mathbf{y}) \\ &= {}^t\mathbf{y}{}^tPAP\mathbf{y} \\ &= {}^t\mathbf{y}(P^{-1}AP)\mathbf{y} \\ &= {}^t\mathbf{y}B\mathbf{y} \end{aligned} \quad \left. \begin{array}{l} \\ \\ \end{array} \right\} \text{直交行列の定義 } {}^tP = P^{-1}$$


となるので、変数 \mathbf{y} に関する係数行列は $B = P^{-1}AP$ である

B の形から、実際に ${}^t\mathbf{y}B\mathbf{y}$ を計算してみると、

$$\begin{aligned} {}^t\mathbf{y}B\mathbf{y} &= (y_1 \quad \cdots \quad y_n) \begin{pmatrix} \alpha_1 & & \\ & \ddots & \\ & & \alpha_n \end{pmatrix} \begin{pmatrix} y_1 \\ \vdots \\ y_n \end{pmatrix} \\ &= \alpha_1 y_1^2 + \cdots + \alpha_n y_n^2 \end{aligned}$$

となり、**交叉項** $y_i y_j$ ($i \neq j$) が現れない形に書き換わったことがわかる

このような交叉項のない形を実二次形式の**標準形**という

 実二次形式の直交対角化と標準形 実二次形式 $Q(\mathbf{x}) = {}^t\mathbf{x}A\mathbf{x}$ に対して、 A を対角化する直交行列 P による座標変換 $\mathbf{x} = P\mathbf{y}$ を行えば、

$$Q(\mathbf{x}) = \alpha_1 y_1^2 + \cdots + \alpha_n y_n^2$$

という、変数 \mathbf{y} に関する交叉項のない形（実二次形式の**標準形**）

にできる

ここで、 $\alpha_1, \dots, \alpha_n$ は重複を含めて A の固有値と一致する